

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.68 新東京病院 医療安全管理室 医療安全管理者 山下美佳様



【山下様】

■ 病院の沿革と概要

昭和 43 年 4 月 千代田線北松戸駅東口に東京外科内科病院開設
 昭和 55 年 1 月 東京病院と改称
 平成 3 年 10 月 法人化により医療法人社団三記東鳳新東京病院と改称
 平成 17 年 4 月 日本病院機能評価機構「一般病棟種別」認定 (Ver.4)
 平成 22 年 9 月 日本医療機能評価機構認定 (Ver.6)
 平成 24 年 12 月 入院機能を備えた新病院開院(松戸市和名ヶ谷)
 病床数 : 373 床(平成 26 年 2 月現在)

■ 病院理念・基本方針

【病院理念】 英文の頭文字を結んで A C H E S (痛み) とし、患者さんの痛みを自分の痛みと感じて行動することを職員一同の合言葉としております。

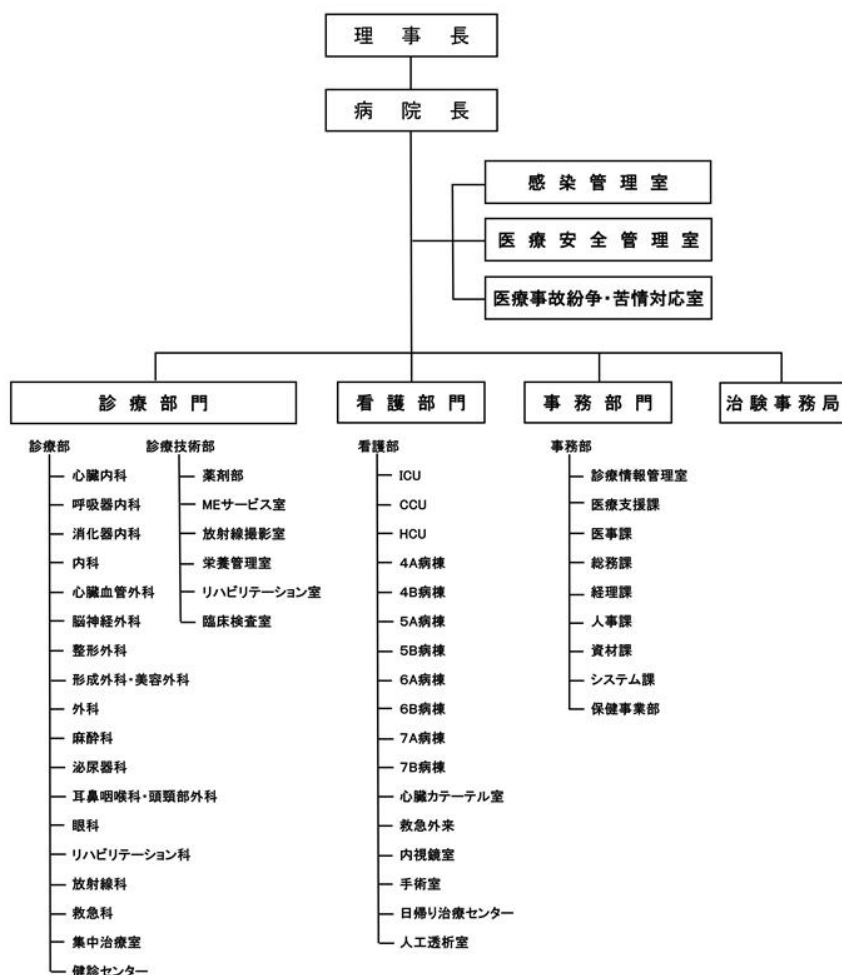
- A 学術的に最先端の知識と技術を持つこと (Academic)
- C より慎重に安全に医療を行うこと (Cautious)
- H 患者の権利を重んじ思いやりの念を持つこと (Humane)
- E より効率よくスピーディに診療を行うこと (Efficient)
- S 誠実な態度で接し、愛で患者さんを包むこと (Sincere)

- 【基本方針】
1. 卓越した医療を行い、良い職場環境を作ることによって、患者さんご家族のみならず、医師をはじめすべての職種の職員からも選ばれる病院になる事。
 2. 第一級の医療人によるチーム医療を確立する事。
 3. 教育、研究に支えられた世界レベルの医療を提供する事。
 4. 患者さん中心の医療を考え、実践する病院である事。
 5. より良い医療の提供のために、広く人材の育成をし、社会的、倫理的責任ある病院の運営を行う事。

1. 組織体制について

①医療安全に関する組織体制についてお聞かせ下さい。

当院では、医療安全統括責任者を院長が兼任しております。統括責任者の下に、感染管理室・医療安全管理室・医療事故紛争苦情対応室の3室が平行して設置されています。医療安全管理室の室長は医師で医療安全管理対策委員会の委員長を兼ねています。私は専従の医療安全管理者で副室長となります。この2名が医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、専任の看護師長、事務と連携をとりながら業務を行っております。もちろん、医療事故発生の場合は院長中心に医療安全管理室と事故紛争苦情対応室が連携をとりながら、進めています。



②山下様の主な業務内容についてお聞かせ下さい。

私の業務は医療安全管理統括責任者のもと、患者安全活動を管理し、各部署のリスクマネジャーが適切に業務を行えるよう協力体制を構築する事です。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

①事例情報の収集はどのような流れですか？

情報収集に関しては、電子カルテ端末すべてに「セーフマスタ」という医療安全管理システムが入っていますので、職員はどこからでも入力報告ができます。各部署に配置されているリスクマネジャーと所属長、所属部長と同時に医療安全管理室に内容が伝わるようになっています。

報告内容を確認した上で、事故後の対応と同時進行で「転倒・転落予防チーム」と情報を共有します。

また、月に一度、医療安全管理対策委員会の中に小委員会としてチーム活動を行なっていますので、そこで転倒・転落事例を分析し対策をたて周知しています。

②近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

2010 年からインシデント報告システム導入しました。報告件数は年間 180 件前後です。

2012 年 12 月に、新病院へ新築移転しましたが、その年は増床比率と同じ 1.4 倍の 260 件でした。

レベル 3b 以上の事例に関しては 2010 年以降ずっと一桁で横ばいとなっています。転倒転落「0」ゼロを目指す、対象者の抑制につながりかねませんので、レベル 3b 以上の重症度の高い転倒・転落事例数「0」ゼロを目標としています！原因に関しては、排泄に関連する行動が割合の多くを占めていると「セーフマスター」の分析により結果がでていますので、このデータを踏まえながら今後の転倒・転落対策を考えていきたいと思っています。

③事故防止のための人的対策はされていますか？

部署毎に対策を行っており、月 1 度の転倒・転落ミーティング内でそれぞれの対策内容を情報交換しています。

ミーティングでは色んな知恵や知識を集める場となっており、他部署の成果の出た対策を取り入れたり、アレンジを加えながら部署間で情報を共有しています。

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

①医療安全に関連して、過去どのような研修を実施されましたか？

昨年に行っている医療安全文化調査（院内の医療安全を活性化する目的で）で、チームワーク力に欠けていると結果がでましたので、全職員を対象に「Team STEPPS」の研修を全職員約 900 名（200 名×5 回）対象に行いました。Team STEPPS の利点は、医療安全の意識を全員が持てる所だと思います。日常業務にも積極的に「Team STEPPS」の考え方を取り入れコミュニケーションエラーによるトラブルをなくしていきたいです。

②地域の病院様と医療安全に関する連携はされていますか？

セコム関連病院内では連携はとれていますが、地域の近隣病院とはありませんので、今後の課題と感じています。

4. 離床センサーについて

【新東京病院様のご導入機種】

コールマット・徘徊コールⅢ ベッドコール・コードレス

①導入機種はどのようなポイントで選定されましたか？

まず、床敷きタイプの「コールマット・徘徊コールⅢ」を導入しましたが、更に早い段階で対象者の動きをキャッチしたかったので、起き上がりを報知する「ベッドコール・コードレス」を導入しました。

センサー選定には基準となるアセスメントスコアシートがありますがそのデータだけに頼らず、現場での状況を考慮しながらセンサーを設置するようにしています。

5.『テクノス通信』に関するコメントと、何か一言お願いいたします。

転倒・転落を減らすには病院スタッフだけ頑張ってもだめ。快適な入院生活を送って頂くためにも、患者様やご家族を交えて転倒・転落について一緒に考えていただかなければならないと考えています！